

今日はふたつのことについてお話させていただきます。

今日の聖書の言葉で弟子達が「私達の信仰を増して下さい」と言ったら、イエス様は何と答えられましたか？「あなた方からし種一粒の信仰があれば、この桑の木に『抜け出して海に根を下せ』と言ってもそのとおりになる」でしたね。この言葉に何か感じるものがないでしょうか。実際のところ、私が木に「抜け出して別の所に根を下せ」と言ってもきかないでしょう。では、どういう意味でしょうか。

質問します。自分の信仰に対してどのように考えているでしょうか。「自分の信仰は問題がない」と思っている方も結構いるでしょう。また「私はどうしても信仰的になれない」という方もいるでしょう。「自分の信仰に自信がある」という方もいらっしゃるかもしれませんが、はっきり申し上げます。自分の信仰は薄い、浅いと思ったほうが正しいです。そうでなければ信仰的に進まない。私達が守らなければならない心がけ、謙遜にならなければいけない心がけがいくつかありますが、その中で絶対に忘れてはいけないことは、自分の信仰に対しての謙遜さです。「私はあなた(神)の前に何もありません」「あなたが助けて下さらなければ何もできません」という心がなければ、傲慢な信仰生活をしてしまいます。そのような信仰生活では、絶対に喜びも希望もありません。何が正しいか、間違っているかの識別力も失います。謙遜になって下さい。特に信仰的に。ですから、教えようとするより、教えてもらおうとする心が必要です。

この世の中で、桑の木を移せる程の信仰のある人はいないでしょう。信仰とは何ですか？神様が具体的に私を愛していることを、私が信じることです。神様は平和、神様は正義、神様は愛……、という神様の大きいイメージは、私達個人的に何の役にも立たない。具体的に私を愛する神を、私が感じられて信じられることが信仰です。そういう意味で、どの位神様に頼っているのでしょうか。委ねているのでしょうか。「信仰を増して下さい」という願いの答えは、「自分の信仰にできるだけ謙遜になりなさい」というものでした。「なぜ私は信仰が薄いのか」という気持ちがあれば、イエス様がその信仰を満たして下さいます。

二番目の話。ミサに与る目的は何ですか？世の中には気の合う人もいれば、合わない人もいます。司祭に対しても「あの司祭とは気が合わない」とか「通じる」とかがあるでしょう。司祭が説教がうまかったり、いろいろなタレントを持っていて信者を導くのが上手だったりすると、信者が多く集まります。ミサに来る人が多くなることもよくあります。逆に、言葉がうまくない司祭、ミサに力がないと感じる司祭のミサには、与る信者が少なくなります。しかし、これは大間違いです。

私達がミサに来る理由は、イエス様に会うため、ご聖体をいただくためです。ミサは、私と神様の間で行われる秘跡を体験するためのものです。ミサは、カトリック信者にとって一番大事なものです。ミサに与らないで「私は信仰生活をきちんとやっています」というのは偽りです。社会でいろいろと良いことはできます。しかし、ミサを拒みながら、いくら奉仕しても施しをしていても、限りがあります。ミサを中心にして下さい。ミサの中で心を開いたら、必ず何かの恵みを得られます。私達のより所はご聖体です。たとえ家族に裏切られても、変わらないより所はご聖体です。ミサとはどれほど素晴らしいものかを感じられます。私がこの教会に、どの位の間にられるかわかりません。私がこの教会を去ったら、他の方が来るでしょう。次の司祭とうまくいかなかったらどうしますか？それはおかしなことです。もし 90 歳を過ぎている司祭が不正確な発音でミサを捧げても、そのことを気にかけないで下さい。ミサに集中して下さい。

もう一回、整理してみましよう。私達がごミサに与る一番大きな理由は、何よりもイエス様との出会いであることを忘れないように意識してください。そして、ごミサ自体が持っている力を信じて

下さい。ミサは、私達の罪の赦しのために、イエス様が変わらない御心で、自らご自分をいけにえとして捧げられる祭儀だからです。もちろん司祭達も、信者の方がごミサに集中して、ごミサの真の味を見ることができるよう、司祭としての役割を果たさなくてははいけません。

絶対に忘れてはいけないことは、ごミサの中心はイエス キリストであることです。日曜日だけではなく、平日のミサにもできる限り与かってください。私達の無知のせいで、ミサによって得られる何かの恵みを失うことが無いように。

ご聖体を中心になる私達の信仰生活。そこには、真の希望と喜びがあることを信じます。これが今日の福音とともに皆様に申し上げたいことです。

感謝致します。